

無料版

4月号

ユーストカー NEWS

毎月1日発行

第132号 定価850円(税込み935円・送料別途)
本社 東京都新宿区高田馬場3-23-3 ORビル6階
☎03(3371)9340 FAX 03(3371)9596 www.u-car.co.jp
本紙の無断転載・複製を禁じます

購読・広告のお申し込みは

☎03-3371-9340

発行所 (株)ユーストカー (株)ユーストカードットコム

24面

相場の先読みは

●●●
を見よ!



2024年度 中古車大学入学式 業界図5年前と比較してみた

2024年度が始まった。23年から24年にかけて、大きく荒れた中古車業界となった。とはいえ、まだまだ進行中で過去形ではないが、そのなかで、新たに中古車業界に入ってくるメンバーも少なくはないだろう。今回は、世界的に猛威を振るったコロナ禍の前と後の数字で、業界の大きな流れの変化を勉強していきたい。
新規参入組、新入社員だけでなく、中古車業界の在校生も復習をしっかりとっておかないと、これからの業界のうねりに飲まれてしまうことになりかねない。
今号では、本誌19年4月号の『中古車大学』で取り上げた18年当時の業界図と、それからコロナ禍を経て、5年が経った23年の業界図の比較をわかりやすく紹介している。大きな流れを理解した上で、日々の商売を行なっていくことが大切な時代になってきたと思う。

2面へつづく



業界最多の82会場と提携 アイオーリアルに新機能が追加され リニューアル!

【新機能①】メモ機能
応札予定の車に自分用のメモを追加できます。



【新機能②】会場グループ並び替え機能
会場選択画面を自由自在にカスタマイズできます。

商売をしているのだ!!

日本の車 現在の保有台数

7849万台

対2018年比 (0.7%増)

新車販売 478万台弱

下取り対象車種 430万台

軽自動車(軽貨物車) 36万台

軽自動車(軽乗用車) 138万台

貨物車とバス 38万台

乗用車 265万台

(3万輸入車31万台)

新車ディーラー数



種別	合計台数	内訳	台数	対2018年比
新車販売	477万9086台	登録車	303万4167台	9.4% 減
		軽自動車	174万4919台	9.3% 減
中古車販売	227万台	登録車	—	—
		軽自動車	—	—

下取り

買取へ

下取り 約393万台

約86万台

中古車買取 およそ90万台

J PUC加盟店+その他

買取店



買取店

買取店 (JPUC加盟店、令和4年実績)	前年比
加盟店数	1644店舗 38店舗増
買取り台数	96万3982台 103.8%

中古車販売 約227万台

市場規模 3兆9062億円

※新車ディーラー販売分も含む

中古車販売店

孫取り

在庫処分

手放しのみ車両



小売り業者

JU調査 (対象1万1070社 回答1944社、2022年3月末基準)	
平均従業員数	9.9人
平均整備士数(有資格者)	3.8人
年間中古車販売平均売上高	1億9900万円
年間中古車平均販売台数	195台
中古車販売平均単価	103万円
保証付き販売割合	74.3%
平均展示台数	43.2台
平均在庫日数	65日

エンドユーザー

増減率

保有台数(二輪車除く。平成30年3月末/令和5年3月末)	7849万32台	0.7%増
乗用車平均使用年数(平成30年3月末/令和5年3月末)	13.42年	1.4%増
免許保有者数(平成30年/令和4年)	8184万549人	0.6%減
高齢者の免許返納件数(65歳以上。平成30年/令和4年)	44万8476人	6.5%増

「5年前〜今」流れを考える

数字だけを見ると、18年と23年の単純な比較をしてしまいがちだが、そこは注意が必要だ。(4面に比較表)

この2つの数字は、その間の5年間の流れがあって現在(23年度)の数字になっている。その数字に流れ着いた……という方が的を得ているはずだ。

自動車保有台数

自動車保有台数は、7793万台から7849万台へ0.7%伸びている。単純に「増えた」ではなく、どうして増えたのかを考えてみよう。

まず、保有自動車のカテゴリー別にみても、「流れ」が見えてくる。普通自動車減少し、軽自動車が増加しているのがわかるだろう。(面の表参照)

自動車保有台数増加の要因は、軽自動車が増

19年4月号で、今回同様の業界全体図をお伝えしたが、皆さんは覚えていらっしゃるだろうか。前回では、大仏の掌(てのひら)のなかに業界図を描いたのだが、わからない人も多かった。今回は大仏様の顔まで表現してみた。

我々は、この『中古車大仏』の掌で転がされている、……と考えると、面白く感じてもらえるのではないかと。

今号は、この中古車大仏に代わって、我々ユーストカーが中古車業界の全体像と流れについて、お伝えしていく。大仏様の掌からこぼれないように、勉強していこうではないかと。

#本文

5年前の大仏の掌を24年の今、なぜ取り上げるのか。言うまでもない、この5年の間には大きな出来事があった。そう、「コロナ」だ。

それ以外にも、ロシア・ウクライナ紛争などもあり、自動車業界だけではなく、各産業界で影響を受けた期間だった。コロナ以外にも紛争、為替、地震、不正問題……、枚挙に暇(いとま)がないのでやめておこう。

この5年間は、間違いなく激動だった。この間の変化を、数字を見て感じて欲しいと思う。なぜ、こういう変化が起きたのか。そして、これからどういう変化をするのか。数字が何を語っているのか考えていこう。

我々はこの掌の上で



海外へ



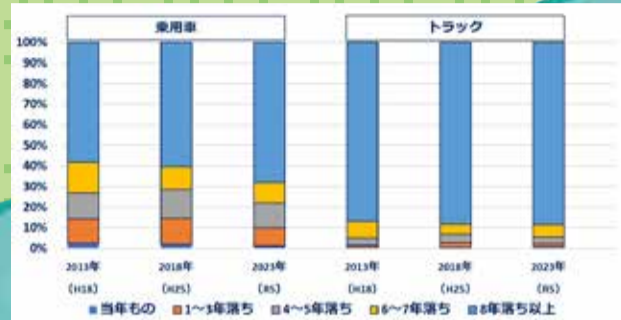
輸出
154万台

別途
・少額貨物
・部品あり

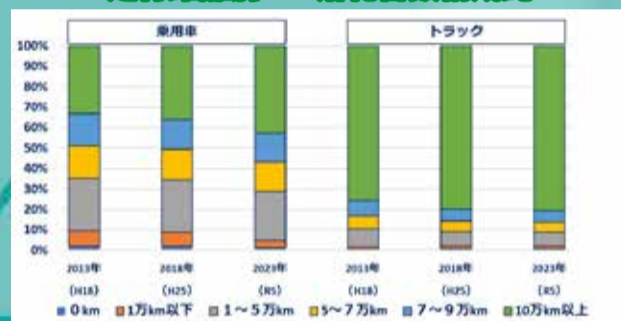
年間開催総数
5186回

出品台数
796万台

登録年式別AA落札台数構成比



走行距離別AA落札台数構成比



評価点別AA落札台数構成比



2023年 仕向け国別中古車輸出 ランキングTOP 30

順位	国名	合計(台)	対2018年比
1	ロシア	218,323	129.6%
2	アラブ首長国連邦	204,503	61.4%
3	ニュージーランド	114,301	-1.7%
4	タンザニア	81,697	39.4%
5	モンゴル	79,771	30.9%
6	チリ	65,699	-29.0%
7	ケニア	61,177	-20.8%
8	南アフリカ共和国	57,036	-36.3%
9	タイ	55,105	489.0%
10	フィリピン	35,282	-7.4%
11	マレーシア	35,068	61.5%
12	ジャマイカ	33,586	12.9%
13	キプロス	29,903	166.8%
14	ウガンダ	29,682	3.2%
15	英国	27,558	176.5%
16	パキスタン	27,419	-49.9%
17	ザンビア	23,562	194.7%
18	オーストラリア	22,526	362.6%
19	ミャンマー	22,320	-67.0%
20	ガイアナ	21,306	272.0%
21	バングラデシュ	20,941	-17.3%
22	ジョージア	20,794	34.9%
23	ナイジェリア	19,599	183.1%
24	アメリカ合衆国	17,529	237.3%
25	モザンビーク	16,620	19.0%
26	コンゴ民主共和国	16,297	147.2%
27	ドミニカ共和国	12,929	102.4%
28	アイルランド	10,574	195.6%
29	ジンバブエ	10,343	77.8%
30	パナマ	9,287	43.1%

AA会場
入札会

解体業者

解体
315万台



解体業者

解体業者	台数 / 社数	増減
使用済み自動車の引き取り台数 (令和2年度)	315万台	15万台減
リサイクル関連登録業者数 (同)	4万1407社	4240社減

リース	リース契約台数 (令和5年)	281万1754台
カーシェアリング	カーシェアリング台数 (令和5年3月)	5万6178台
レンタカー	レンタカー登録台数 (令和5年3月末)	101万4545台
整備工場	整備工場数 (令和5年度末)	認証工場9万1946カ所 指定工場3万147カ所
	給油所	給油所数 (令和4年度末)
中古車査定士	査定士数 (令和3年度)	13万3288人
	査定業務実施事業者数	7820社

乗り換えサイクル

新車	約7.8年
中古車	約5.9年

えていることによるものなのだ。ここからは憶測も含めた話になるが、コロナ禍でのセカンドカーを含む「足」として、軽自動車の保有に走ったユーザーが多かった可能性がある。

また、トヨタが海外に向けて新車をリリースして、国内納車を手薄になった結果の可能性もある。

マクロで考えれば、日本においてはデフレ継続のなかでの物価高騰により、選択肢として、相対的に安価で経費負担の少ない軽自動車選ばれた可能性も考えられる。それが当たりで、それがハズレということではなく、これらの要因が絡み合っただけの結果になっているのだから。他の要因もまだある可能性もあるが……。

考えていきたいのは、普通乗用車の台数が、このまま下がっていく流れが継続していくかどうか。軽自動車の増加が続くかどうか。軽自動車さえ、減少していくかどうか。これらは、我々のマーケットが縮小していくかどうかに大きく関わるので、しっかり見ていくことが大切だ。

そういう意味でもうひとつ、18年に大きな転換点を迎えていたことがある。

免許人口がピークを付けた

4面右下の図を見て欲しい。18年(平成30年)は、免許人口がピークだったことがわかる。いうまでもなく、ピークを付けた後は減少ということになる。

5年前の我々の環境は、まさに「お客様の減り始め」だったといえるのだ。面白く伝えるならば「大仏の掌が小さくなった」ともいえるだろう。これについては、人口減という、どうにもならないバックボーンがある。中古車販売店・買取店・店の数も、お客様の減少とともに、バランスをとるように減少をしていくのか。まさに「生き残り」という言葉を意識していかなくてはいけない時代に入るのか。

少し前に、横の業界で先駆者?がいる。ガソリンスタンド業界だ。ガソリンの需要は、自動車保有数の前に、ハイブリッドの台頭等によりガソリンの需要が減少の一途であった。

それに相関してSS数も減少していった。しかし、1SS拠点当たりの販売量は増加しているのだ。そう、儲からないSSが淘汰され

激動の5年間 何が起きていた

残ったSSにお客様が集まった結果だ。免許人口が減り、需要が減ることが避けられないとするならば、儲からない販売店・買取店が淘汰され、残ったお店や企業が潤うということになるのだろうか。

これは、輸出が好調であるのも要因のひとつ。好調なので、下取り対象年式の主軸である5年落ちを中心に、高騰が続いている車種が多い。

「回転数」という救いの一手も

悪い話ばかりではなく、良い話もある。「回転数」、つまり乗り換えサイクルだ。とくに新車の乗り換えサイクルが短縮しているのだ。

この乗り換え平均年数はどこで測定するか、その測定が合っているかどうかも含め、事実を突き止めるのはなかなか難しい。ウェブでも様々な数字が並んでいる。しかも「およそ」付きだ。

しかし、全般的に調査をしていると、間違いなく回転数が上がっている。これはコロナ禍のおかげ!?、ここ数年の相場高騰によるところが大きいだろう。

下取りが異様に高い時代が、ここしばらく続いている。これはユーザーにとって、間違いなく乗り換えやすい要素となる。乗り換えの手出しが少ない、もしくは異常な価格高騰により、ほとんど

2018年 2023年 比較表

トピックス	2018年 (2019年4月号掲載)	2023年 (2024年4月号掲載)	増減率
■保有台数	7794万台	7849万台	0.7%増
普通車	4738万台	4689万台	1.0%減
軽自動車	3056万台	3160万台	3.4%増
■新車販売台数	528万台	478万台	9.5%減
・軽自動車(軽貨物車)	43万台	36万台	16.3%減
・軽自動車(軽乗用車)	150万台	138万台	8.0%減
・貨物車とバス	45万台	38万台	15.6%減
・乗用車	290万台	265万台	8.6%増
■下取り			
・下取り対象車種 ※1	450万台	430万台	4.4%減
■新車販売	527万2067台	477万9086台	9.4%減
・登録車	334万7943台	303万4167台	9.4%減
・軽自動車	192万4124台	174万4919台	9.3%減
■中古車販売	262万台	227万台	13.4%減
・売上高	3兆4,396億円	3兆9,062億円	13.6%増
・平均単価	131.3万円/台	172.1万円/台	31.1%増
■AA・年間開催総数	5092回	5186回	94回増
・出品台数	736万3000台	796万4000台	8.2%増
■輸出 ※2	132万5593台	154万3364台	16.4%増
■解体業者			
・使用済み自動車の引き取り台数	330万台	315万台	15万台減
・リサイクル関連登録業者数	4万5647社	4万1407社	4240社減
■リースほか			
・リース契約台数	261万1275台	281万1754台	20万0479台増
・シェアリング台数	2万9208台	5万6178台	2万6970台増
・レンタカー登録台数	80万6558台	101万4545台	20万7896台増
・整備工場数(認証)	9万2044カ所	9万1946カ所	98カ所減
・整備工場数(指定)	3万101カ所	3万147カ所	46カ所増
・給油所数	3万747拠点	2万7963拠点	2784拠点減
■乗り換えサイクル			
新車	9.0年	7.8年	

※1 新車販売の9割で計算
※2 年間輸出台数過去最多。円安とコンテナ船腹の空き発生が貢献

止まらないだろう。回転数が今回の7.8年と、5年前の9年と同じ土俵の数字かどうかの確認は取れないが、仮に23年が

これらは、すべてこの5年のなかでの「フン詰まった」結果であろう。忘れてはいけないだろう、コロナ禍が始まった「半導体不足」。様々なサブライチェーンの詰まりが、新車製造を停滞させてしまった。なかには、パワーシート無しのベン

ツなども発生したことは覚えておきたい。この時の滞留が解消され、通常運転し始めたのが23年なのである。通常運転といっても、たまたま

この5年の流れを感じると同時に、これからの5年をどうするかを考えた方がいいか。

WSは今後も「先読み」の材料と「実践」の取材報告を行っていき、今年度の入学生は、

新車販売台数 オークション出品台数

このような詰まりの解消で、一気に数字が伸びたといえる側面がある。注意をしておきたいのは、徐々に好調が積み上がった、今の数字にたどり着いたのではないということだ。

「先読み」と「実践」と「実践行動」であろう。我々ユーストカーNEWSは、今後も「先読み」していき、是非、有料版をご購読いただきたい。

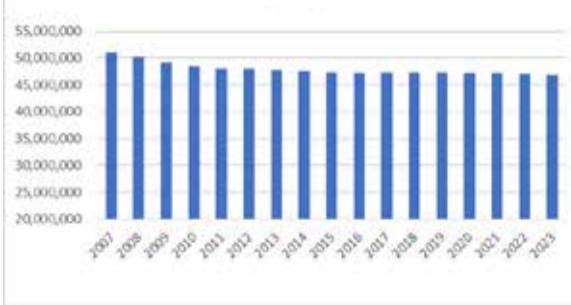
《考えておきたいこと》
この5年の流れを感じると同時に、これからの5年をどうするかを考えた方がいいか。

8年だとしても、1割以上、回転が速くなっているはずだ。あるならば、お客様が1割増えたことを意味する。自動車保有数が1割減までは減少していないのだから、商機は増えているといえる。

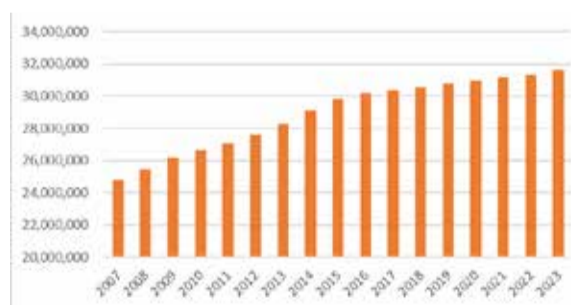
ユーザーが減少することと同じように、フン詰まり解消後は、商売にとつて逆風となるだろう。

今回のこの業界の方々に、なぜ現在のよう状況になってきたのかをしっかりと勉強してもらいたいので、特別に1面4面のトップ記事を無料版についてもオープンにした。

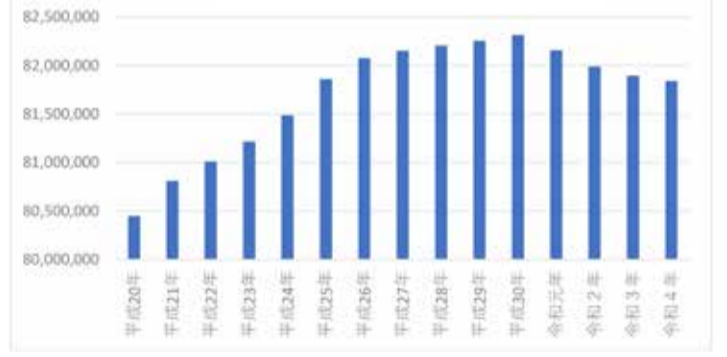
普通車保有台数



軽自動車保有台数



免許人口推移



4/17 株式会社18周年大記念

とオークネットライブ限定23周年オークション

ご来店台数別

- 1台賞 A
- 2-4台賞 A+B
- 5-9台賞 A+B+C
- 10-19台賞 A+B+C+D
- 20台以上賞 A+B+C+D+E

ご来店台数別

- 1台賞
- 2-4台賞
- 5-9台賞
- 10台以上賞

内外線 パイオクの会社ネット 45%

360度 周りで買いやすい

360度 使用料: 月2000円~ 年契約

国内 OK-リアルズL 前アシプラモ☆

更に 入札料0円